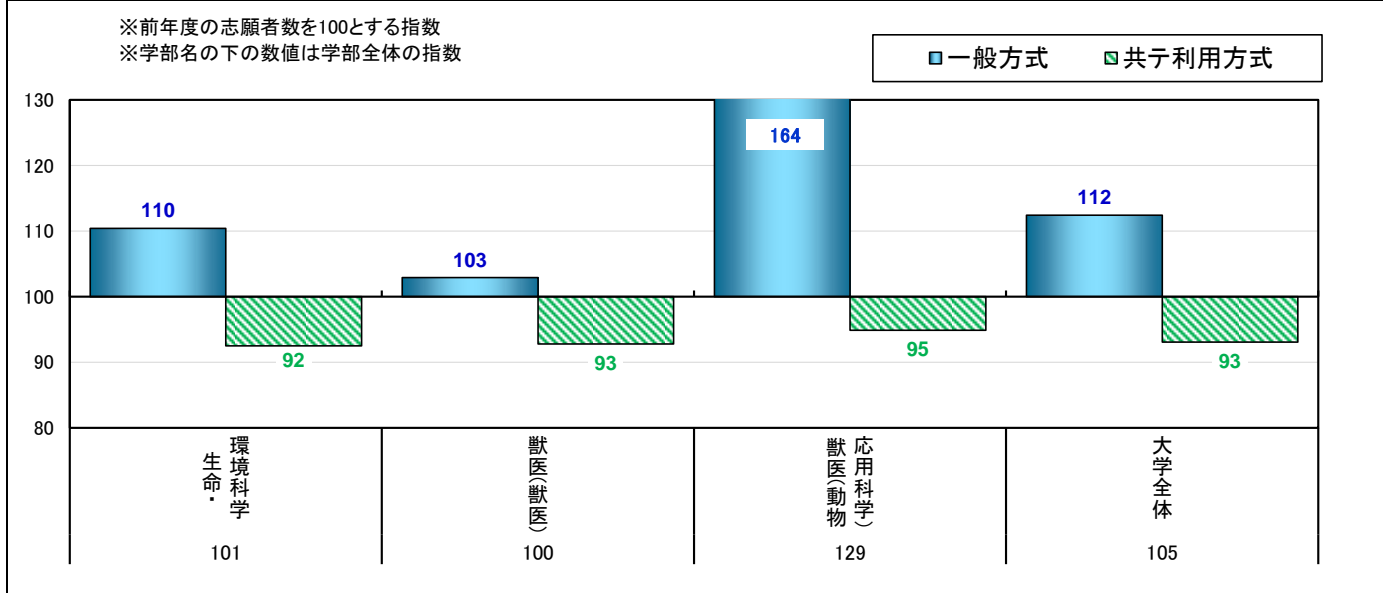


麻布大：大学全体では4年ぶり増加 2学部ともに増加

一般：+267人 共テ：-100人



主な入試変更点	<p>出願方法：獣医(獣医)〈一般・第I期3科目型〉…第2志望制の導入 ※(動物応用科学)を第2志望とすることが可能 選抜方法：生命・環境科学…〈一般・第I期2科目選択型〉2回実施→3回実施 〈一般・第I期D日程総合問題型〉新規実施 獣医(動物応用科学)…〈一般・第I期2科目選択型〉新規実施 〈一般・第I期D日程総合問題型〉新規実施 〈一般・第I期3科目型〉廃止 入試科目：獣医(動物応用科学)…〈一般・第II期2科目型〉外+(数or理) ※理：化or生→(数or理or外)→2 ※理：化or生</p>
---------	--

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、167人(105)のやや増加で4年ぶり増加。方式別では、一般方式は〈一般・第I期〉で新規方式導入や実施回数を増やしたことで267人(112)の増加。一方で、共通テスト利用方式は100人(93)のやや減少で、4年連続減少。

〈一般方式〉

- 生命・環境科学(110)は、4年ぶりに増加。学科別では、(環境科学)(154)は、前年度大幅減少の反動に加えて、新規方式実施と試験実施回数増加により大幅増加、(食品生命科学)(101)は2年連続大幅減少の反動はなく微増に留まった。(臨床検査技術)(94)はやや減少で2年連続減少。学科・方式別では、特に(環境科学)〈一般・第I期〉(171)は前年度大幅減少の反動に加え、〈2科目選択型〉の実施回数の増加や〈D日程総合問題型〉を新規実施するなど、受験機会が増えたことが影響して激増。
- 獣医(獣医)(103)は、やや増加で4年ぶりに増加。方式別では、〈第II期〉(115)の大幅増加が目立った。
- 獣医(動物応用科学)(164)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加し、志願者数も3年ぶりに400人を超えた。方式別では、〈第I期〉(190)は新規方式の導入で激増、一方で、〈第II期〉(81)は入試科目で外国語が必須から選択になるという負担減の影響はなく、大幅減少で4年連続減少。

〈共通テスト利用方式〉

- 生命・環境科学(92)は、減少で3年連続減少。志願者数は5年ぶりに500人を下回った。学科別では、(環境科学)(102)は、2年連続大幅減少の反動はなく微増。(臨床検査技術)(99)は微減。一方で、(食品生命科学)(78)は前年度増加の反動で大幅減少。方式別では、〈共テ・第I期〉(91)は減少、共通テスト受験後に出願可能な〈共テ・第II期〉(110)は増加で、共通テスト平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした出願が可能なことも影響。
- 獣医(獣医)(93)は、やや減少で4年連続減少。方式別では、〈共テ・第I期〉(91)は4年連続減少。〈共テ・第II期〉(130)は実施2年目だが大幅増加、共通テスト受験後に出願可能なことで、共通テスト平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした出願が可能なことも影響。
- 獣医(動物応用科学)(95)は、やや減少で4年連続減少。方式別では、〈共テ・第I期〉(92)は4年連続減少、〈共テ・第II期〉(178)は実施2年目だが激増、共通テスト受験後に出願可能なことで、共通テスト平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした出願が可能なことも影響。